

〇〇六

2012
0907



すずしん



地域外交の重要性

この7月から8月の間に、モンゴル、シンガポール、台湾を訪問しました。モンゴルは小楠和男・県議会議長を団長とする県の公式訪問団の一員として、シンガポールは私的滞在と併せて個人的に調査や意見交換を行なうため、そして台湾は日華友好議員連盟の一員としてというように、立場がそれぞれ異なる形での視察でした。

私は元々、国連本部で働くことを夢見て英国に留学しました。残念ながら力及ばず実現しませんでした。外交に関わる機会を求めて、国会議員の政策担当秘書資格を取得し、政策秘書を11年余り務めました。ですから、地域外交に大変積極的な川勝知事と共に活動できることを、本当に有難く思っています。とりわけ本年度は、県の地域外交や観光等を所管する企画文化観光委員会に所属していることもあり、単に県の事業をチェックするだけでなく、具体的な提案や自らもお手伝いできることは積極的にしていきたいと考えています。

「地域外交」は、川勝知事が従来の「国際交流」という用語に代えて使用している言葉で、庁内には「地域外交局」が設置されています。「外交」と言いますと「国が行なうべきではないか」という意見、あるいは、「モンゴル・ドルノゴビ県（人口約6万人）のような小規模の自治体と交流してどれ程の経済効果があるのか」等の批判的な声が

時々聞かれます。もちろん、防衛、TPPのような関税・貿易等に関する取り決め、通貨等に関しての外交は、国レベルで行われるべきものです。経済や観光等に関するプロモーションも首相や大臣によるトップセールスは重要です。しかし、国が特に静岡県のために常に外交的なことをするわけではありません。具体的な交流実績や成果を挙げるには、県が市町や民間企業・団体と連携して継続的に地域外交を行なっていかなくてはなりません。例えば、台湾視察では、国交がない日本との窓口機関である亜東関係協会の黄明朗秘書長らと懇談しましたが、実は「他県からも同じ日時での懇談の要望があったが、静岡県の方が関係は長く深い先約でもあった



モンゴル・ドルノゴビ県と静岡県との友好協定締結1周年を記念し、同県サインシャンド市内の幹線道路の一つが「静岡通り」と命名されました。（7月30日）※隣は小楠議長



シンガポール全国旅行業協会（NATAS）主催の国際旅行フェアで静岡県をPR（8月24日）



シンガポール政府の組織である人民協会のNah Juay Hng氏（私の隣）と地方自治体との交流の可能性等について意見交換（8月24日）

ので、幹部職員は当県との懇談を優先した」ということでした。また、モンゴルやシンガポールは人口規模から言えば小さい国ということもあり、交流している日本の自治体はわずかですが、その分、逆に、より熱烈な歓迎を受けているように思います。ドルノゴビ県を訪問した際には、夜遅い時間帯にもかかわらず静岡県旗等を掲げて駅で出迎えて下さいましたし、友好協定1周年を祝う横断幕やポスターが市内各所に見られました。また、静岡直行のチャーター便だけでなくソウル経由で静岡に来るモンゴルの方も増えているということですし、今回お会いした企業家にも、自己負担してでも静岡にもう一度行きたいという方々が多かったです。更には、お話を伺った清水武則・駐モンゴル日本大使によれば、本年度の経済成長率は世界最高の20%位になるだろうという正に高度成長期にあるモンゴルですので、今後、工業、農業、上下水道・電気・道路のインフラ整備等の分野で協力し合えば、静岡県にも様々な経済的恩恵がもたらされることと思います。

人口減少社会に突入した日本そして静岡県にとって、海外との人的・経済的交流を促進することが一層肝要ですし、その為には、更に県が積極的に地域外交を展開することが不可欠です。私も微力ながら、出来る限り県の地域外交に貢献していきたく思います。

少しは役に立つ!すずきの智慧(さとのめぐみ!?)袋

「南海トラフ巨大地震をどのように考えるべきか:正しく冷静に恐れよう」①

8月29日、国は南海トラフ巨大地震による津波高・浸水域の推計と被害想定について公表しました。こうした推計・想定は、かなり複雑な計算式や考え方に基づいて策定されており、そうした部分もある程度理解しておかなければ、思わぬ誤解や、いざと言う時の誤った行動につながりかねません。地元の皆様から様々な質問を受けることもあり、そこで、何回かに分けて、私の理解している範囲で若干の解説を試みたいと思います。

① 南海トラフで次に発生する地震・津波が、今回公表された「最大クラスの地震・津波」であるという意味ではない:南海トラフ(駿河湾の富士川河口付近を基点として、御前崎沖、潮岬沖、室戸岬沖を通して九州沖に達する深い溝(トラフ))では100年から150年程の周期で M8クラスの地震が過去に発生しており、近い将来、東海地震、あるいは、1707年の宝永地震(49日後に富士山噴火)のような東海・南海・南海の3連動地震が発生する可能性があると考えられています。今回の「最大クラスの地震・津波」は、東日本大震災を受け、最新の科学的知見で考えられる「あらゆる可能性を考慮した」想定であり、これまでに確認されている南海トラフでの過去の大地震の規模を大きく上回るもの(M9クラス)です。つまり、M9クラスの地震が南海トラフで過去に発生した証拠は確認されておらず、現在の研究レベルでは今後の発生時期を予測することはできませんが、その発生頻度は極めて低い(例えば、千年から数千年に1度?)とされています。

② 「最大クラスの地震・津波」が発生したからといって、13mの津波が直ちに駿河区を襲うという意味ではない:今回の想定では、11のケースについて計算が行われ、駿河区の場合、そのうちの1つのケースで最大13m、2つのケースで最大12m(※駿河区の海岸全域をそうした高さの津波が襲うという意味ではありません)の津波が来るとされています。つまり、「最大クラスの地震・津波」が発生したら必ず駿河区を13mの津波が襲うという意味ではありません。実際の発生の仕方や発生時の潮位等にもよります。また、今回の想定では、津波が最大クラスのケースでも、1mの津波が駿河区に到達するまで4~6分、5mの津波は6~8分、10m以上の津波は16~17分掛かるとされています。1~5m程度の津波は現在の第3次被害想定のおおむね範囲内であり、既存の堤防等でもかなり防ぐことができると考えられますので、10m以上の津波が到達しても大丈夫な地点や施設まで16分以内に逃げれば十分助かるということになります。地震が発生したら直ちにそして諦めずに、海岸からより遠くより高い所を目指して避難することが、やはり肝心なのです。

お読み下さりありがとうございます。『すずしん』に関するお問い合わせは…

静岡県議会議員すずきさとの事務所 〒422-8075 静岡市駿河区大坪町3-27
電話 054-281-3715 FAX 054-281-3716 E-mail: mail@suzukisatoru.net
開所時間: 月・水・金(休祝日除く) 9時~17時 ※石田街道沿いにあります!

地元根ざした事務所を目指しています。県議会について話を直接聞きたい、地域の活動等で事務所を使いたいという方、遠慮なくご連絡下さい! すずきさと



今こそ、
DIYの政治を!